

システムへの愛着

NECフィールドディング株式会社
北関東支社 宇都宮支店 サービス課

本 間 渉

私は保守員として、元々は支店配下の大型汎用機をご使用いただいているお客さまの保守をメインに担当しておりましたが、数年前の異動から現在までは同じ県内の営業所の保守員として、データセンターをメインに担当しています。

そんなある日、異動前に担当していたお客さまの定期点検の応援依頼を受けました。

「明日、別件が入ってしまったのでB社の定期点検お願いしても良いですか？」

担当を引き継いだ後輩からの連絡でした。

B社は製造業のお客さまで、その生産管理の基幹システムではサーバ機器が稼働しており、マシン室の空調機や、社内パソコン、プリンタ等も弊社で保守を担当しています。

点検予定日、久しぶりのB社訪問だったため自分が担当していた頃のシステム部のTさんと会える事を楽しみにしながらB社のある工業団地に車を走らせました。

B社のBCP対策による基幹システムの東西への分散配置によって、システムとともにシステム部門のメイン担当者として異動して来られた方がTさんでした。

システム部へ到着し挨拶をするもTさんは席を外しており、会えなかったという少し残念な気持ちのままマシン室の中へ。

「あとをお願いします」と作業を任せられ、1人室内で定期点検作業を行うことになりました。

サーバ機器のランプ状態、ログの確認、吸排気スリットの清掃等を行い、報告書を作成。

点検対象ではありませんでしたが、空調機や周辺機器の状態確認をしていると、満面の笑みのTさんが手に何かを持ってマシン室に現れました。

「まいど！元気にしてましたか？」とTさん。

「ご無沙汰しております。Tさんも元気そうですね。」

簡単な挨拶を済ますもTさんの手元が気になってしまい、私が覗き見していると、

「これ懐かしいでしょ？」

Tさんが見せてくださったのは、移転当時に稼働していた大型汎用機のエンブレムでした。

そのエンブレムは専用ラックの前面に飾り付けられていた金属製のもので、システム撤去の際に営業担当に頼み込んで取り外し保管されていたという事を、のちに伺いました。

大型汎用機は機器のオープン化に伴い数年前にサーバにリプレースされていましたが、エンブレムを見せていただいた後は定期点検の報告も忘れて、2011年の震災当時の話やサーバ導入までの大型汎用機の思い出話になってしまいました。

東日本大震災の際は、本震の大きな揺れのために大型汎用機自体がズレ動いてしまい、あと少しでフリーアクセスの床下から伸びていた電源や制御ケーブルが切断寸前になった話。

「支店長と課長と本間さんと、うちのシステム部の皆で、力仕事で元の位置に戻したよな」

「今思えば、600kgから700kgありましたが、よくあの人数で動かせましたよね。」

「今となっては笑って話せるけど、震災後はいろいろ大変やったなあ」

そんな話をしていた中で私が思い出したのは、サーバへの稼働切り替えに伴う大型汎用機の撤去作業時の出来事でした。

天気の良い休日の作業だったと思います。

大型汎用機を停止させケーブル接続を外し、機器を解体した後は2階のマシン室から業務用エレベーターで1階に荷降ろしを行い、搬出業社への機器の引き渡し。

業者によって搬出用の車両への機器の積み込みが始まった時、Tさんが搬出業者へ怒り出したのでした。

「ちょっとちょっと、もっと丁寧に扱って！撤去する機械やけど投げな！」

業者が車両へ積み込む際に、機器を投げ入れていたことへの注意だったのです。

普段は関西のノリで面白おかしくお話しし

てくださる方だったため、その怒りように驚きを感じた事を思い出しました。

「Tさん、あの時は大分お怒りでしたよね。怖いくらいでした。」

「そんな事もあったなあ。今まで使用してきたシステムを乱暴に扱われた事が我慢できなくて、しばいたろかと思ったよ。愛着あったからなあ」

東西分散配置前から稼働していたシステムで、一緒に栃木県にやってきた大型汎用機。

東日本大震災をも乗り越えて使用されていたシステムに対しての愛着があったからこそ言葉だったのだと感じました。

「本日はお時間いただきまして有り難うございました。お会いできて良かったです。」

「帰りの運転気をつけて。また来てな。」

B社から支店に戻る車の中で私は、思い出話とエンブレムの事を後輩にも聞かせてあげようと思うとともに、お客さまが現行のサーバ機器にも愛着を持ってご使用いただけるよう、お客さまに寄り添い、お客さまへの愛着をもって保守に携わっていきたく強く思いました。

愛着：

#慣れ親しんだ物事に深く心を引かれ、離れ難く感じる事。

大事にしなければならないもの。